

平成22年度事業報告

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

1. 調査・研究の実施

- (1)研究部会、分科会を開催し、その活動を通じて調査研究を進めるとともに、得られた成果を報告会等を開催して会員等に周知した。また、関連学会・研究会との騒音・振動に関する情報交換を行い、会員活動の拡大を図った。
- (2)騒音振動関係の日本工業規格(JIS)の見直し・原案作成および国際規格(ISO、IEC)の審議に協力した。
- (3)従来から実施している受託調査研究業務については、騒音・振動制御に関するテーマについて可能な範囲で受託し、騒音振動技術の発展に努めた。

2. 会誌、技術報告、学術書の刊行

- (1)「騒音制御」34巻2号～35巻1号の6冊を隔月に発行し会員に配布した。その中で、会員のニーズに応じた特集記事を企画し誌面の充実を図った。
- (2)「騒音制御用語事典」を平成22年4月に発刊した。また、「お話シリーズ(仮題)」の出版に向けて編集作業を継続して進めるとともに、学会としての出版活動の一層の充実を図った。

3. 研究発表会等の開催

(1)平成22(2010)年春季研究発表会の開催

平成22年4月22日(木)に(独)産業技術総合研究所臨海副都心センターにおいて春季研究発表会を開催し、講演論文集を刊行した。

《セッション》

- ① アクティブコントロールの現状と将来の展望
ーもっとANC技術を広げるためにー
- ② 設備系固体音の現況及び測定法
- ③ 都市の気象と音響伝搬の予測
ー国際的な研究動向と研究事例ー
- ④ 音環境デザインにおけるNoise Policy
- ⑤ 【ワークショップ】高い周波数成分を含む騒音の取扱いをめぐって

(2)平成22(2010)年秋季研究発表会の開催

平成22年9月28日(火)～29日(水)に新潟大学工学部において秋季研究発表会を開催し、講演論文集を刊行した。

4. 講演会、講習会、展示会、見学会の実施

(1)特別講演会等の開催

平成22年度通常総会(平成22年5月)において、特別講演会を開催した。

- ・騒音振動行政の現状と課題:土居健太郎氏(環境省)

・環境アセスメント制度について:浅野直人氏(福岡大学)
また、秋季研究発表会(平成22年9月)において、特別講演、シンポジウム及び展示会を行った。

・特別講演「朱鷺の野生復帰から私たちは何を学んだらよいか」
:山岸哲氏(新潟大学)

・シンポジウム「騒音の予測と制御における数値計算技術」

(2)技術講習会等の開催

技術講習会を4回開催し、騒音・振動技術の普及・向上に貢献した。

5. 国内外の学会・協会との交流

(1)INTER-NOISE 2011の日本開催に向けて準備作業を行った。

(2)I-INCE加盟団体としてその活動に協力すると同時に、INCE/USA等と情報交換を行った。

6. 業績の表彰、認定技士の資格認定

(1)学会の選奨制度を効果的に運用し、会員による騒音・振動技術の推進と普及を促し、社会への貢献を図った。守田栄論文賞、研究功績賞、環境デザイン賞、研究奨励賞の贈呈を行った。

(2)資格制度に基づき社団法人日本騒音制御工学会認定技士の資格認定を行うとともに、活動の強化を図った。

7. 新公益法人制度への対応

平成20年12月1日から新公益法人制度がスタートしたことに伴い、公益法人認定申請を行った。平成23年3月18日に認定書の交付を受けた。

8. 社会貢献活動の実施

平成23年2月18日に葛飾区が開催した平成22年度公害防止講演会にて、「騒音とは?その対策方法と考え方」をテーマに金属切削・加工業の工場主及び公害防止管理者を対象とした出前講座を実施した。

9. 会員拡大のための活動

会員の増加等、会勢拡大のための方策の実施について検討した。

10. その他

(1)会員の拡充に努め、特に若年研究者の入会を促すために努力した。

(2)ホームページの充実と整備を継続的に行い、学会活動の基盤強化と会員に対する学会情報等の素早い伝達と周知を図った。